

日本に向けてデザイン 日本の木工技術で創造

コペンハーゲンを拠点に、世界の舞台で活躍するCecilie ManzがACTUSのオファーで「世界に誇れる日本の家具」のプロジェクトを飛騨高山の日進木工をパートナーにスタート。膨大なスケッチやプレゼンテーション資料とモックアップから3年を経て完成。木という素材の特性と木工技術の粋が結実したプロダクトと「木」を単語化した“moku”と命名しました。



moku by Cecilie Manz

TIME & STYLE から スタッキングできる椅子

林裕輔と安西葉子によるドリルデザインの椅子。色分けされた2つのリングが互いに強度を補い合い、体重を支える構造になっている。さらに、それをまったく同じ直径にすることで、スタッキングも可能としている。この特徴的なリングは日本の高い曲木の技術によって実現されている。背の形状にはウィンザータイプと、明の椅子をモチーフにした2種類ある。



OFFSET by DRILL DESIGN

CONDE HOUSEから 背が樹脂のチェア登場

木部の凜としたフォルムと、それは対照的なアームから背へ続く樹脂部のなめらかなライン。TEN はどこから見てもMichael Schneiderが求めた「シャープ&ソフト」が理想的なバランスで表現されている椅子。背はフォーマルな張りタイプと斬新な樹脂タイプ、シートも座張と木座を揃えた、選ぶ楽しさのあるラインナップ。タモ材は北海道産を使用。



TEN by Michael Schneider

Shoe Maker Chair Hender Scheme×Karimoku

カリモクがはじめてファッションブランド・レザー小物のHender Schemeとコラボ。「素材の特性を生かし、長年使い込んでいけるものをつくる」を共通テーマで、ヌメ革には素上げ特有のシワやムラ、メイプルには縮み歪やパークポケットという独特の木目があり、どちらも経年により飴色に変化する特徴がある。デザインはエンダースキーマの柏崎亮氏。



Sandal and Shoe Maker Chair
by Hender Scheme × Karimoku

Gebrüder Thonet Vienna GmbHの家具

nendo によるトーネットの曲げ木家具。曲げ木を使っているが、それで全体を構成するのではなく、1か所だけ曲げ木を使うことをテーマにした。素材、パーツのサイズ、プロポーションなどは伝統あるトーネットのイメージを最大限に継承。直線的な家具の一部だけが曲がっていることが強いコントラストを生み、曲げ木の魅力をいっそう際立たせる。



single-curve by nendo

スタッキングしても 連結しても美しい椅子

国際家具デザインフェアデザインコンペで入選したフィンランドのデザイナー Mikko Halonen によるOU-chairを工芸が商品化。背・座はオーク成形合板。フレームはナラ材。スチール焼付塗装の黒い可動パーツにより、折りたたみが可能。さらに椅子を連結したり、収納のため重ねたり立てかけた際に安定する。スリムな折りたたみ椅子です。



OU-Chair by Mikko Halonen

杉柾目圧縮の飛騨産業 岐阜県との連携プロジェクト

飛騨産業が atelier oi とのコラボレーションによる新作 Gifoï をミラノサローネで発表しました。atelier oi は世界的なブランドの商品を手掛けてきたスイスのデザイン事務所。昨年は Louis Vuitton のスツールが印象的でした。Gifoï は杉柾目圧縮材を使ったダイニングチェアとテーブル。日本の杉を有効活用すべく開発した新素材。



Gifoï by atelier oi

倉本仁の美しい 木製シェルチェア

広島で古くから家具の産地として、歴史と高い職人技を脈々と受け継いできた府中家具。技術や伝統を礎に、現代的な新しい発想と解釈を家具で表現する為に新しいブランド「MEETEE」は始動した。Nadia は船大工の技術から木造船を想起させるような組み木構造が全体に現れ、デザインと構造が高い次元で調和した家具です。



Nadia by Jin Kuramoto



Tukki Chair by Harri Koskinen



Wafer by Claesson Koivisto Rune